



ナビゲーション

ねん がつごう
(2020年9月号)

じりつ みちあんない
自立への道案内



もくじ

- シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！
あさき くにひろ き きょういく ひつよう
～新崎 国広さんに聞く インクルーシブ教育は、なぜ必要か～…………… 2
- 新シリーズ
しん
せぶん
～～～Sevenメッセージ～～～ じりつせいかつ と やとしはる
自立生活センター・あるる 鳥屋利治さん……………12
- いきつけのお店紹介します
みせしょうかい ほりすていっく へあー くりえいしょん えん えん
holistic hair creation 燕～en～…………… 15
- 編集後記…………… 16

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消!

～新崎 国広さんに聞く インクルーシブ教育は、なぜ必要か～

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者や制度の状況、その制度はどう変わってきたのか?今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、なぜインクルーシブ教育が必要なのかを語ってもらおうというコーナーです。昨年度は障害当事者の方や元高校教師の方にお話を伺ってきました。今年度は、大学の先生にスポットを当ててお話を聞いてみたいと思います。今回は大阪教育大学の教授をされている新崎国広さんにお話を伺いました。新崎さんは、大手前整肢学園のケースワーカーを21年間されていましたが、その後、大学教員になられました。ケースワーカーを経て大学教員になろうと思っただけ、施設の時に取り組んでいたこと、インクルーシブ教育に必要なことなど、たくさんお話いただきました。



<プロフィール>

新崎国広

大阪教育大学教育学部教育協働学科教育心理学講座 教授
大学院教育学研究科健康科学専攻(夜間大学院) 教授

1978年、肢体不自由児施設にてソーシャルワーカー兼ボランティアコーディネーター

として従事。働きながら、社会福祉士資格取得、大阪教育大学大学院修士課程修了

1999年専門学校専任講師、2001年中部学院大学助教授を経て、2003年4月より大阪教育大学准教授

2007年4月より大阪教育大学教育協働学科教授。2020年4月より大阪教育大学教育協働学科特任教授

著書

『ボランティア・市民活動実践論』(分担執筆)、ミネルヴァ書房、2019

『教育支援人材とチームアプローチ-社会と協働する学校と子ども支援』、書肆クラルテ、2016

『なぎさの福祉コミュニティを拓く-福祉施設の新たな挑戦』(編著)大学教育出版、2013

『岡村理論の継承と展開 第2巻自発的社会福祉と地域福祉』(分担執筆)、ミネルヴァ書房、2012

社会的活動

日本福祉教育・ボランティア学習学会理事

日本教育支援協働学会理事

大阪府社会教育委員協議会会長

～施設の状況に驚いた～

新崎: おふたりに久しぶりに会えて嬉しいです。

今日は、よろしくお願ひします。

小坪: 僕や山下が大手前整肢学園に入園して

たのが30年前です。今日は取材できてう

れ嬉しいです。よろしくお願ひします。

山下: まず、大手前整肢学園で児童指導員にな

うと思っただけ、施設に入るきっかけを

新崎: 大手前整肢学園に入るきっかけは、不純と

しょうがい しょうがいがある子どもたちが居てる
しょうぼう はたら き ひこうしょうねん いま
職場で働く気はなく、非行少年とか今
じどうそうだんしょ こ じしん いろいろなや
でいう児童相談所で子ども自身が色々悩
んでたりする、保護者との関係を見ていき
たいと思ってたんです。

こつぽ しょうがいぶんや めざ わけ
小坪：はじめから障害分野を目指していた訳で
はなく、別のところで働きたいと思って
たんです。

あささき どうじ がつ ちゅうじゆん
新崎：そうですね。当時、3月の中旬ぐらい
まで就職が決まらなくて、もう就職
できるとき おおてまえせい
出来へんという時に、たまたま、大手前整
しがくえん しょうがいじんぼしゅう さいよう
肢学園が職員募集してあって採用された
んです。そこから、障害児の支援を考
えるようになりました。

やました しょうくいんぼしゅう ぼく あささき
山下：その職員募集がなければ僕らが新崎さん
と出会うこともなかったんです。

あささき だいがく はい なんこう で あ
新崎：そうですね。大学に入って、南光くんと出
会ったり、障害のある子の外出支援をボラ
ンティアでやってたんやけど、仕事にする
つもりはまったくなかったんです。

こつぽ はたら はじ いんしょう
小坪：働き始めたときの印象はどうでしたか？

あささき しせつ へいさいせい おどろ
新崎：施設の閉鎖性にめっちゃめっちゃ驚いたのが
さいしょ ねんまえ おおてまえ
最初でした。ふたりも 30年前に大手前に
にゅうえん なんじ ほんた
入園していたけど、何時ごろご飯食べて
ましたか？

やました じ
山下：16時でした。

あささき ね じかん なんじ
新崎：寝る時間は何時でしたか？

やました じ い い
山下：19時に「ベッドに行きなさい。」と言われ
ていました。

あささき ぼく しゅうしよく しょうわ ねん
新崎：そうですね。僕が就職した昭和53年の
とうじ じぶん しんべんじりつ でき こ
当時は、自分で身辺自立が出来ない子は
じ ぶん はい
17時30分にベッドに入ってたんです。16
じ しょくじた じぶん しんべんじりつ こ
時に食事食べて、自分で身辺自立できる子
ども達は、19時まで起きてていいというル
ールだったんです。その時に、僕は悩みま

だいがく
した。大学でノーマライゼーションについ
まな しせつ じったい ぜんぜんちが
て学んできたのに、施設の実態は全然違っ
たんです。

こつぽ かんたん い
小坪：ノーマライゼーションって簡単に言うと、
しょうがいしゃ けんじようしゃ おな せいかつ
障害者が健全者と同じように生活して、
じゅうじつ せいかつ かつどう しゃがい めざ
充実した生活・活動ができる社会を目指
すのが基本的な考え方ですもんね。

やました ぜんぜんちが
山下：全然違いますね。

あささき はたら はじ しょにち ふちよう そうだん
新崎：それで働き始めた初日に婦長さんに相談
に行っただけです。

やました じ ぶん はや
山下：17時30分はさすがに早すぎますね。

あささき ほんとう
新崎：そうやろ。もう、本当にびっくりしました。

ふちよう はなし
そこで婦長さんと話をさせてもらったん
ですが「せめて 17時30分に寝ている子
らを 19時でも早いと思うんですが、19時に
いっしょ ね はな
一緒に寝ることでできませんか？」と話した
ら、婦長さんに言われたのが「とりあえず
げつかんはたら げんぼ い
1 か月間働いて現場をみて、それが言
えるかどうか判断して。」と言われました。

やました にちめ おも ふちよう
山下：でも、1日目に「おかしい」と思って婦長
さんに話に行く行動力がすごいです。

こつぽ おも
小坪：それだけ「なんとかしたい！」という思い
が強いってことですよ。

あささき げんじよう いそが
新崎：でも、現状はものすごく忙しかったし、
じょうだんぬ げつた とき や
冗談抜きで1か月経った時に、辞めよう
とおも おおてまえ はい
と思ったんですよ。でも、大手前に入
っている子どもたちに「デメキン（当時の新崎
さんのあだ名）辞める気違うんか？」と言
われて、子ども達の前ではそんなこと言
ったことないねんけど。

こつぽ ふんいき かん と
小坪：そういう雰囲気を感じ取られたんですかね。

あささき かん と や
新崎：うん。感じ取られてたんやろうね。「辞め
へんよ。」と嘘ついて言ってから、なんと
かいけつ おも
か解決したいなと思って。

やました かんが
山下：どんなことを考えはったんですか？

あらさき にん にゆうしょ ころ
新崎：2人が入所していた頃はもう、ボランティア
アのお兄ちゃんとかお姉ちゃんとか、たく
さん来てくれてたと思うんですけど、最初
はボランティアを受け入れることはすご
い反対されたんですよ。

こつぽ
小坪：どんなことを言われたんですか？

あらさき しせつ じかんあんしん あんぜん ほしやう
新崎：「施設って24時間安心と安全を保障すると
ころやのに、そこに素人のボランティアの
ひとき しょくいん
人来てもらってどうするん。」と職員や
いしや い かんが
医者からも言われたり、でも、なんぼ考え
ても17時30分にベッドに上がるって、そ
ちちの方がすごく僕は、問題やと思ってね。

やました あらさき ほか いっしょ かつどう ひと
山下：新崎さんの他に一緒に活動している人はい
なかったんですか？

あらさき おな おおたに もと
新崎：同じケースワーカーだった大谷さん（元
だいがくきやうじゆ ねんせんばい
大学教授）が4年先輩やってね、それで
そうだん びやうとう
相談したんです。ひまわり病棟とバラ
びやうとう びやうとう
病棟があるんやけども、ひまわり病棟の
こ やきゆうぶはい
子は野球部入ってなかったんですよ。

こつぽ ぼく ころ びやうとう さんか
小坪：僕がいた頃は、病棟によって参加できな
いとかはなく皆でしていましたね。

あらさき さいしょ じやうきやう しょうがい
新崎：最初はそんな状況でね。せめて障害の
こ やきゆうぶ さんか でき
ある子らが野球部に参加出来るようにと
か、みんな同じ時間に寝ることが出来るよ
うにしようということで、ボランティアを
しせつ う い い かんご
施設に受け入れてほしいと言って、看護
じよし じっしゅうせい こえ こうはい がくせい
助手の実習生に声かけたり、後輩の学生
こえ
に声かけたりして、そこからちよつとずつ
しせつ ちいき ひろ
「施設を地域に広げていきたい」という
かたち うご だいがく
形に動いていったんですよ。これが、大学
せんせい
の先生になる1つのきっかけでもあるん
です。

～ 砦と広場という言葉が好き～

やました ちいき ひろ とき かんごし
山下：「地域に広げていきたい」という時に看護師

げんば うご
さんとか現場で動いているスタッフさん
きやうりよくてき ひと
に協力的な人はいましたか？

あらさき おもてだ きやうりよく ひと
新崎：表立っては協力してくれる人はいないけ
てつだ ひと なんにん
ど、手伝ってくれる人は何人かいたかなあ。
おのうえ おおてまえ にゆうえん おも
尾上さんも大手前に入園していたと思う
けど「施設から地域に戻った方がいい。」
い おおたに せんばい おがわ
と言われたのは、大谷さんの先輩に小川さ
んという方は、もしかしたら、尾上さんに
そういうことを言っていたのかもしれない
おおてまえ しょくいん にゆうしょがたしせつ
ん。大手前の職員は、入所型施設にいな
しょうがい ひと じりつ む
がら、障害のある人たちが自立に向けて
たいせつ せつきよくてき うご
大切な、積極的にやっついていこうという動
ききょうかん おおたに
きに共感してた。大谷さんもそうだった
おも
と思います。

こつぽ ちいきいこう すず いま い
小坪：地域移行は進んでいるとは未だに言えませ
んが、当時でいうと画期的なことですよ。

あらさき しせつ で き かいぜん うご
新崎：施設で出来ることを改善していこうと動い
ていったんやけども、しょうがいとうじしや
りつせいかつ
りつと自立生活していくというのは、すご
い応援できるところは応援しようという
おも
思いはありました。ノーマライゼーション
のことも考えていきたい、でも「入所型
しせつ へいさせい なか なや
施設の閉鎖性」というギャップの中で悩ん
だのが、3年ぐらい続いてました。

こつぽ しせつ かいぜん い み ぼく
小坪：施設を改善していくという意味では、僕た
ちが入園していた頃も参加しましたが、
にゆうえん ころ さんか
びわこ い しせつ
琵琶湖にキャンプに行ったりとか、施設の
なか そと で と く
中だけではなくて、外に出る取り組みもさ
れてたんですよ。

あらさき ぼく とりで ひろば ことば す
新崎：僕は「砦と広場」という言葉が好きでい
つか しょうがいとうじしや ひと
つも使うねんけど、障害当事者の人たち
じぶん せいかつ ようきゆう
が自分が生活していくために要求してい
かいぜん
ったり、改善を求めていくのは、それは
だいじ おも とうじしや
大事だと思うんです。そういった当事者
うんどう とりで ひやうげん りねん
運動を「砦」表現しています。その理念

がなかなかメインストリーム化（主流派、
しゅじくは）しにくいといった時に、僕の仕事
はそういった障害当事者の思いを周りの
ひとにわかしてもらい、つまり共感の輪、
ひろばをつく。っていうこの2つの仕組みづ
くりをしていかんとね。

こつぽ くるま りょうりん か
小坪：車の両輪みたいにどちらが欠けてもダメ
ということですね。

あらさき じりつせいかつ
新崎：みんながやっているような、自立生活セン
ターでの活動や運動を見ていると、砦の
うんどう たい おうえん おも
運動に対しては応援したいと思う。

やました しょうがいとうじしゃ がくせい いろ ひと しょうがいしゃ
山下：障害当事者が学生や色々な人に障害者の
せいかつ つた だいじ
生活を伝えることも、もちろん大事ですが、
それだけでは、なかなか伝わらない部分も
あると思うので、新崎さんのような大学の
せんせい ちから たいせつ れんけい つた
先生の力が大切で、連携して伝えていけ
たらと思いました。

あらさき ひと いま ふくし
新崎：ボランティアの人とか、今まで福祉に
むかんしん しょうがいしゃ ひと へんけん も
無関心やったり、障害者の人に偏見を持
っている人達に少しでも、そのことを理解
してもらい。障害者の生き方とか生きづ
らさとか、逆にすごい力があるよ。とい
うことを知ってもらい、そういう仕組みを
つく ぼく こつぽ やました
創っていくのが僕で、小坪くんや山下くん
のように、自分たちで自分たちの権利をし
っかり動いてく。砦と広場というのが、
けんか けんか ぼく かんが
喧嘩してしまうとよくないなと僕の考え
かた じりつせいかつ
方なんです。自立生活センターの
ちよくせつてき うご ちから
直接的な動きには力にはなれないかも
しれないけど、そのことの意味を学生達や
しゃかい つた ひろば ゆた
社会に伝えるという広場を豊かにする
しごと ぼく しごと おも
仕事ってというのが僕の仕事かなと思って、
いまとく かん
今取り組んでいるという感じです。

こつぽ いろ たちば ひと じぶん ことば い み
小坪：色々な立場の人たちが自分の言葉で意味や

ひつようせい つた だいじ
必要性を伝えていくこと大事ですね。

やました はなし か ぼく ようごがっこう とき
山下：話は変わりますが、僕は、養護学校の時が
いちばんたの おな しょうがい こ
一番楽しかった。同じ障害のある子ばっ
かりだったし、自由に移動もできたので。

あらさき ようごがっこう わる
新崎：養護学校がいいか悪いかっていうのも一理
おも しょうがい ひとたち とくべつ
あると思う。障害がある人達が特別にそ
こに分けられることで、障害がある人達
りかい きかい うば
の理解をする機会を奪われていることが
もんだい おも い
問題だと思えます。だから、よく言われて
いるのが、僕らが仕事に関わった 1970
ねんたい とうごう
年代というのはインテグレーション＝統合
きょういく かつち ぼ とうごう
教育っていう形で「場の統合」っていう
て、その、とにかくその場に一緒にいるこ
だいじ りろん はったつほしょうろん
とが大事だと。という理論と発達保障論と
いうのがあって、とにかく発達に応じた
きょういく ひつよう かんが かつ
教育が必要という2つの考え方があった。
ぶつかり合ってたんですよ。

こつぽ ぼく しょうちゅうがっこう ふつうがっこう かよ
小坪：僕は小中学校は普通学校に通っていて、
こうこう しえんがっこう い
高校は支援学校に行っていました。

やました ぼく いえ ちか がっこう
山下：僕は、家の近くに学校はあったけど、
しょうがいしゃ う い せつび じんいん
障害者を受け入れる設備や人員がない
こうくがい しょうがっこうちゅうがっこう
ということで校区外の小学校中学校に
ふん かよ
タクシーで30分ぐらいかけて通っていま
した。

あらさき おおてまえ なか にんげんかんけい で き
新崎：大手前の中でも人間関係って出来てるやん。
こつぽ いま じりつせいかつ
小坪くんが今こうやって自立生活センター
かつどう ひらしたこうぞう すみのえく
で活動しているのも平下耕三さん(住之江区
じりつせいかつむちゅう だいひょう
にある自立生活夢宙センターの代表で、
おおてまえせい し がくえん にゅうえん せんばい)
大手前整肢学園に入園していた先輩)の
えいきょう おお しせつ
影響が大きいやん。だからといって、施設が
い
良いかというところというわけではない。やっ
はいじよ じょうきょう ひはん
ぱり排除されている状況を批判しながら
ぎやく い なか で にんげん
も、逆に言うとそこの中から出てきた人間
かんけい おお ぼく
関係というのはすごく大きいよね。僕は、カ

はっそう おお おも いっぼ ふ
発想が多いと思うんですけど、もう一歩踏み
こ じぶん もんだい こと
込んで自分たちの問題として、その事を
かんが ひと ふくし しごと
考えてくれるような人たちが福祉の仕事
つ ひと いっばん なか
に就く人たちだけじゃなくて、一般の中に
いてくれたらいいなと思います。それを
きょうし はっそう も
教師もそういう発想をいつも持っててほ
しいなとおも せきょういくだいがく い
しいなと思って、教育大学に行きました。
こうろうしょう ふくし もんかしやう きょういく たてわ
厚生省（福祉）と文科省（教育）の縦割
りやしなかなか、理解してもらいにくかつ
たのは事実かな。

～話上手より聞き上手～

やました すこ しせつ はなし き おおてまえ
山下：もう少し施設の話聞きたくて。大手前
なか おや しょうがいしゃ いろいろ ひと い
の中でも親も障害者も色々な人が居てた
おも ひどり
と思うんですが、一人ひとりへのアプロー
ちの方法はどうされていましたが？

あらかき しっぱい はなし かあ さいしよ
新崎：失敗から話すると、お母さんたちに最初は
だいがくそつぎやう ほう
大学卒業してすぐは「こうした方がいい。
こんな制度ありますよ。こういう活動あり
ますよ。」と積極的に声をかけてたんやけ
ど、あるお母さんに「あんたは障害者を産
んだことがないから、そんな理想論を言え
るんや。私らの気持ちわからへん！」と言
われて、めちゃめちゃショックを受けて、
ほんとう そうだんぎやうむ こわ
本当に相談業務をするのが怖かった。それ
でも子どもらとの関りを一生懸命やっ
てたら、そのお母さんも何か月か後に
「新崎さん、子どもと一生懸命向きあつ
てくれるね。感情的になって悪かったけ
ど嬉しかったよ。」と言われて嬉しかった
んやけどね。

こつぼ おやどうし まるまる こ あたま
小坪：親同士が「〇〇さんの子は頭がしっかり
していいねえ。」とか「うちの子は、歩
けるねんけど、知的に障害があるからな

あ。」とかないものねだりをしているのを
よくみましたね。

あらかき はなしじょうず き じょう
新崎：そうなんやね。よく、話上手より聞き上
ず ぼく
手っていうじゃないですか。僕らケースワ
ーカーの仕事って情報提供したり色々
アドバイスをするんじゃないで、子どもさ
んやお母さんの立場に立って、その人が受
け止められるような形に聞き上手になら
ないとダメやなとその時思いました。いろ
んな保護者がいましたよ。最初から熱心に
「どんな制度ありますか？どんな訓練あ
りますか？」とか聞きに来てくれた人もい
れば「もう死にたい。」と落ち込んだり、
ひとくち ほごしゃ たいおう いほんとう
一口に保護者への対応と言っても本当に
バラバラです。さっき、山下くんが言って
ようごがっこう ここち い いっしょ
た養護学校が心地が良いのと一緒のよう
に、そこに居ると、みんな同じ思いを持っ
て応援していこうという信頼関係と仲間
が出来から、その事はすごい大きな力
やと思うし、我々専門職は限界を決めて
しまうんよね。この子は障害が重いから
むり ちょうふく しょうがい ぼく
無理やとか、重複の障害があつて、僕ら
から見たら、そりゃちょっと無理やろうと
おも ぶぶん じりつ
思ってしまった部分もあったけど、自立
せいかつ とく なか じりつ つな
生活センターの取り組みの中で自立に繋
がっている障害当事者の力は凄と思う
し、すごく思いました。

こつぼ せんもんしよく げんかい き
小坪：専門職こそ限界を決めてしまうという
ことば きも めい おも
言葉を肝に銘じておきたいと思います。

あらかき い
新崎：それとやっぱり、ロールモデルが居てくれ
ることがやっぱり大きいよね。ついつい
せんもんしよく ぜんぶ わ ひと
専門職が全部分かってて、その人をサポ
ートすることで終わってしまうと、きっと
そんな発想にはならへんやろなと。

こつぽ はなし き あらた せんもんしよく おも
小坪：話を聞いて改めて専門職だから思っ

てしまうというところもあるのかなど。

あらさき いま ふくし い
新崎：今、なぎさの福祉コミュニティーと言っ

てるんやけど、なぎさって何かという海と陸をダムみたいに施設の壁みたいに切る

んじゃないくて、どっちも出入り自由な状況を作っていく重なり合う部分で

いろんな学びがあるん違うんかなど。もしかしたら、自立生活をガンガンやっている人からしたら、中途半端な人間に思われるかもしれないへんけど、僕らは広場を創っていく。

つまりそういうことで理解してもらう人間をどれだけ増やしていけるかという仕事をして行きたいし、みんなは新しい仕組みを作っていく、この2つが共存することがすごく大事やなど。そういう仕組みが大事かなど。

やました か
山下：どちらが欠けてもダメですね。

あらさき おおてまえ い ころ おこ
新崎：大手前に居てる頃は、よく怒られたんやで。障害者の顔を見ないで、ボランティアの顔色ばかり見て！と。わかってもらうためにはどんな方法でもありかなど。

～出会いと対話によって深めていける～

やました しょうがいしゃ ほう む しごと い にん
山下：障害者の方を向いて仕事せせと言う人もいたんですね。

あらさき しせつ
新崎：もちろんもちろん！やっぱり施設でいてるやったら、子ども達と遊ぶ時間作ってあげてと。もちろん作ってんねんけど、そうじゃないところでボランティアの人に来てもらって、子どもたちのことを話をする機会を作ることというのは、理解者を増やすというねらいがあるねんけど、そのへんがなかなか、理解してもらえなくて、ちょっ

くろう と き せいど で き
と、苦労した時もあった。制度が出来てくる過渡期やったからね。今はある程度制度が出来てるから逆に、その制度の中で若い障害者の場合は、自分から訴えてボランティアを集めたりしないのかな。

こつぽ げんじょう かいご じかんすう まんぞく
小坪：現状の介護時間数だけで満足してしまっている気がします。

あらさき ぼく おうえんだん
新崎：そうやね。それと、僕らみたいな応援団を作っていく。この両方が大事。やまゆり園の事件があったけど、自分たちの問題として障害者も健常者も考えていかないといけない。障害者の方に大学に講演に来てもらうことがあるねんけど「障害者のほうが自由や。」と感想に書く学生もいてね。そういうのが大きな問題なんやろなど。

こつぽ ひと なか つた がわ
小坪：いろいろな人がいてる中で伝える側もバリエーションを持っておかないとダメだなと。障害者と関わったことがないと具体的な部分に興味をもってもらいにくいし、一般論で困ると言うだけでは、伝わりにくいと思います。

やました いろ りゆう じじょう で き
山下：色んな理由や事情があるから出来なくても仕方ないと言われそうでもんね。

こつぽ ぎやく ひと わ
小坪：そうそう。でも逆にその人のことが分かってくると「この人には介護が必要」と理解される。理解を深める手段として同じ趣味の人と繋がり繋がりを通して社会を変えらるというのが大切だと思う。

あらさき きょうかん
新崎：まずは、共感できるものがあるって、いろんなことのしんどさを共有できて、そういうコミュニティーが出来たらいいよね。教育でいう学びとは出会いと対話によって深めていけるという言葉があるんやけどね、実際に話してみないと、その人の

ことわからへんやん。「障害者しょうがいしゃのことどう
おもいますか？」と言われても。関係性かんけいせいが
できるときひとむしはいじょ
出来た時に、その人が無視むしされたり、排除はいじょ
されたことに対してはおかしいいと言える
けども、本気ほんきで思えるけど。関係のないと
ころに怒りいかとか共感きょうかんは生まれないと思う。
地域ちいきでインクルーシブきょういくな教育うを受けること
は、大きいおおと思う。そうでないと、知ら
ん状況じょうきょうの中では、どんなひどいことされ
ても、そのことについて怒りいかや同情どうじょうを起
こさない限りかぎ、共感きょうかんしてくれたり一緒いっしょに
闘たたかってくれる仲間なかまが出来ないできと思う。い
ろんなアンテナやきっかけもさくを模索もさくするこ
とはいいことだおもと思います。

～施設しせつや学校がっこうの閉鎖性へいさせいを

なくしていきたい～

小坪こつぼ：障害受容しょうがいじゅよう出来てない人ひとに対してのアプリ

ーチはどうされてたんですか？

新崎あらさき：大手前おおてまえの時は、近くちかの近鉄百貨店きんてつひやくてんへ外出がいしゅつ

していた。月一回つきいっかい。地域ちいきは楽しいと経験けいけんをし
ないと、指導員しどういんが「社会しゃかいに出て行き。」と言
っても説得力せつとくりよくないやん。一泊いっぱくで旅行りょこうにも
行きました。当たり前あてまえのことが出来なかつ
た時代じだいです。失敗しっばいも含めてね。駅員えきいんがラッ
シュヤから、今は車くるまいすは乗るのと言わ
れたこともありました。

小坪こつぼ：友人ゆうじんは職場しょくばに行くために電車でんしゃに乗ったらラ
ッシュで「降りる駅えきに連絡れんらくがつかないから
つぎでんしゃにしてください。」と言われ会社かいしゃ
に相談そうだんし出勤時間しゅっしんじかんを遅くおそしてもらったそ
うです。

新崎あらさき：そうなんや。まだまだ変わかってないねえ。
失敗しっばいや面白い経験おもしろいけいけんがあるから次つぎに繋つなげて
いけるとおも思います。でも、与えられた所あただ

けでやってると、見えない部分ぶぶんがたくさん
あるよね。

山下やました：外そととの繋つながりや仲間なかま作りつくって大きいおおですね。

新崎あらさき：経験けいけんしないと「自立じりつって良いやん」て言いわ

れへんやん。例えば、クリームパンとジャ
ムパンと、あんパンどれがええか言いわれて
も食べた経験けいけんしてなかったら選えらばれへん
やん。食べた経験けいけんがあったら言いえるけどな。
せつかく、今回こんかいこういう話はなしができる場ばを
つくってくれたので、僕ぼくからも質問しつもんさせてく
ださい。「なぜ、教育きょういくに移うつったん？」と言
われるんやけど、学校がっこうの仕組しくみと施設しせつの
仕組しくみと共通点きょうつうてんあるねん。何なにやと思おもう？

小坪こつぼ：学校がっこうは、時間じかんが決きまってて、先生せんせいがいて、
子どもたちがいてて、施設しせつもスケジュール
が決きまってて職員しょくいんがいて障害者しょうがいしゃが居いま
すね。

新崎あらさき：そうやね。学校がっこうも施設しせつも縦たての関係かんけいやん。学校がっこう
教育きょういくでは、いじめや不登校ふとうこうや障害しょうがいのこと
について学校がっこうの先生せんせいだけでは無理むりやと思
うねん。施設しせつも一緒いっしょで施設しせつの職員しょくいんがいて
子どもらがいて、僕ぼくらが指導しどうしてるやん。
施設しせつや学校がっこうの閉鎖性へいさせいをなくしていきたい
い。だから、ボランティアいを入いれたり、地域ちいき
の人ひとたちが学校がっこうに関わかかっていくといふこと
を取り入とれたりしなアカンちがのん違ちがうか
と。障害者しょうがいしゃに対するいじめとか貧困ひんこんに対
するいじめとか、そういうことなかって中おで起
こってしまつて、先生せんせいもどう対応たいおうしていい
のかわからないと、思おもうし、スクールソー
シャルワーカーや地域ちいきの人ひとたちの助けたすけも
大切たいせつやと思おもう。閉鎖性へいさせいな関係かんけいをどう打破た破は
していくのか、そういう仕組しくみをどう作つくって
いくのか僕ぼくのライフワークやなど。

山下やました：先生せんせいによって障害しょうがいに理解りかいがあるなしで変か

わってきますよね。

あらさき きょういく ふくし おな かだいとか
新崎：教育と福祉も同じ課題抱えているから、
いっしょ て つな きょうつう かいけつ
一緒に手を繋ごう。共通に解決できるこ
ともある。教師がインクルーシブ教育を
りかい とき しょうがいとうじしゃ こうえん
理解して、その時に障害当事者が講演に
来てもらったりするといいねんけど。

こつぽ がっこう さいきん くるま たいけん たいけん
小坪：学校で最近、車いす体験、アイマスク体験
をしったりしていますが、その点ではどう思
いますか？

あらさき ふべん お
新崎：不便さをわかるだけで終わってしまってい
ると思います。体験後の作文では、「これ
しょうがい ひと やさ
から障害のある人に優しくしていきたい
か せんせい こ りかい
」と書いて、先生らは、子どもらに理解
してもらえて良かったと満足しているん
です。でも彼らの心の中には「歩いて良か
め み よ かん
った。」「目が見えて良かった。」と感じて
いる。それではアカンと思います。障害が
あってもこんなこと出来る、こんな可能性
じりつせいかつ
もあんなんで、と自立生活センターの
しょうがいとうじしゃ つた たいせつ
障害当事者が伝えることが大切だし、そ
れで、人間は変われると思う。

まわ ひと りかい ～周りの人に理解してもらるように～

やました なま こえ たいけん つた たいせつ
山下：生の声や体験を伝えることって大切ですね。

しせつ けいけん だいがく せんせい
施設で経験したことや大学の先生になっ
かん おも あらさき
て感じたこともあると思いますが、新崎さ
んは、インクルーシブ教育に必要なこと
は、なんだと思いますか？

あらさき ぼく あ まえ で あ ていきょう
新崎：僕は当たり前に出会いが提供できるとか。
にほん ばあい しえんきょういく ほんとう い み
日本の場合の支援教育は、本当の意味で
のインクルーシブ教育ではなくて、分離
きょういく おも しえんきょういく
教育だと思っんです。支援教育って、そ
しょうがいとうじしゃ あ きょういく ていきょう
の障害当事者に、合わせて教育を提供
していこう。っていうのが中心やん。

しょうがいとうじしゃ まわ か
障害当事者はいてるけど、周りがどう変

わるのか。まわ しょうがいしゃ かんけい
まわ しょうがいしゃ かんけい
周りと障害者との関係をどう
ゆた しえんきょういく
豊かにしていくのかといった支援教育を
かんが こ しょうがい あ
考えていかないと、その子の障害に合わ
せん おも お せん おも
せた支援を重きに置かれていると思っ
んです。それは、それで大事やけども、課題
かか こ まわ こ
を抱えている子どもらを周りの子どもら
との関係をどう豊かにしていくのかの
はっそう しえんきょういく と い
発想を支援教育に取り入れていかないと
ほんとう い み きょういく
本当の意味でのインクルーシブ教育は、
な た おも
成り立たないと思います。

やました きょういく ひろ
山下：インクルーシブ教育を広めていくために
わたし しょうがいとうじしゃ なに
は私たち障害当事者は何をすべきだ
かんが
と考えますか？

あらさき きょういく たいしやう しょうがいしゃ
新崎：インクルーシブ教育の対象は、障害者だ
けではなく、それを取り巻く周りの人が、
そのことを理解しないとダメやと思っ。よ
ふか きょうかん で き まわ ひと たい
り深い共感は出来ない。周りの人に対
するいろいろなアプローチを考えていく
ひつよう おも よわ おも
必要があると思っます。そこが弱いと思っ
のが、僕の意見。僕がしてることは、障害
とうじしゃ じゆぎやう なか つた
当事者のメッセージを授業の中で伝えた
りしています。やっぱり、障害者運動は大
きいですね。

やました こんかい ひさ あ
山下：今回は、久しぶりにお会いすることができ、
しせつ はなし
施設の話やインクルーシブ教育につい
かんが
てどう考えているのかなど、たくさんお
はなし うかが で き うれ
話を伺うことが出来て嬉しかったです。

ありがとうございます。

あらさき
新崎：ありがとうございます。

せ ぶ ん 〜〜〜Sevenメッセージ〜〜〜

今回から始まりました。Sevenメッセージのコーナー。どんなコーナーかという、障害者の自立生活運動に携わっている人に、障害者運動の魅力や、どんなところにやりがいを感じて活動しているのか？活動をしていく中での楽しさや面白さを自由に書いてもらうコーナーです。記念すべき第1回目は、NPO法人自立生活センターあるの鳥屋利治さんをお願いしました。

ひと ちいき 〜人とのつながり、地域とのつながり〜

とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人ある
じりつせいかつ
自立生活センター・ある
だいひょうりじ と やとしはる
代表理事 鳥屋利治

プロフィール

と や としはる
鳥屋 利治

1968年 大阪市生まれ、脳性麻痺。就学前に1年間、訓練施設に入所。小中高校と地域の学校へ通う。職業リハセンターを経て企業で18年間勤務。大学時代に車いすツインバスケットを通じて当事者仲間と出会い障害者運動に参加。2009年より自立生活センター・あるで活動、現在、NPO法人あるの代表理事、都島区自立支援協議会委員長。



みなさん、こんにちは。自立生活センター・あるの鳥屋です。私たち

のセンターは、都島区に根をはり、活動を続けています。今回、ナビゲーションの新連載に執筆の声をいただき、ナビゲーションからの7つの問いかけに対して、あらためて自分たちの活動、そして自分自身の想いを振りかえてみました。



ちいき がっこう ふくしきょういく
地域の学校で福祉教育

1. なぜ、今の活動をしようと思ったのか？

私は、以前は企業のシステム部門で20年近く働いてました。

とは言っても、並行して20年近く障害当事者活動にもたずさわってました。これは頸損連の活動で、20歳になったころ、車

いすツインバスケットボールを通して、そのバスケ仲間が頸損の人たちで（私は脳性麻痺ですが）、バ

スケというよりは頸損連の活動にどんどん関わっていくことになりました。学校時代は地域の学校に通っていたので障害者と会うことはなく、このときあらためて障害者と出会い、仲間意識が生まれ、よく遊びました。そして、自分自身が障害と向き合うことになり、障害者のおかれてる状況を知り、社会に訴えかける取り組みやセルフヘルプの活動にのめりこんでいきました。あるは、この頸損連で出会った当時若いメンバー数名が立ち上げました。その流れから、私もあるに運営委員などで関わってきました。40歳を過ぎたころ、自身の重度化もあり、あらためて自分が障害当事者として果たしていく役割をつよく考えるようになり、二足のわらじを履く状態から会社員を辞め、あるに合流し、障害当事者活動の一本にしぼって歩を進めてきました。

2. 活動をして気づいたこと（今までの自分と変わってきたこと）

今、私たちあるは、C I L・相談支援、介助サービス、生活介護を行っています。そして、C I L・相談支援事業では、相談対応にまつわる地域の中の関係機関との連携、つまり障害福祉や生活保護、生活困窮、こども支援などの行政機関はもとより、病院や訪問、サービス提供事業所、区社協の見守り相談室やあんしんサポート、包括支援センターなどとの関わりがつつよいですが、もう1つ、地域との連携として地域活動協議会や、地域福祉コーディネーター、そして町会とは防災関係で、学校とは福祉教育を通じて、さまざまなネットワークづくりに力を入れてきました。

そうした活動をするなかで、やはり、地域のなかではまだまだ障害のことは知られていないと気づき、ともに生きる社会をつくるにはもっと地域に障害者のことを知ってもらい取り組み、地域の人たちと障害者がふつうに関わる接点をもっと必要だとあらためて気づかされました。それまでは障害者間のピアとしてのサポートやセルフヘルプ活動、障害者と介助者・支援者との関係づくり、障害者の自立生活、という視点から、さらにその先の「障害者と地域」という視点に自分の視野が広がったことが今までの自分と変わってきたことかもしれません。C I Lでのこうした活動を通して、自分が今までも地域で暮らしていたのに、地域のことをまったく知らなかったということにあらためて気づかされました。

3. 続けられている理由は？

やはり仲間がいることが支えとなっているのは確かです。自分たちあるの仲間はもちろんですが、大阪のいくつかの障害者団体との連携も支えとなっています。とくに大阪のC I L各代表とは仲も良く、随分昔から知っている顔ぶれも多く、心の支えにもなっています。私自身、エンパワメントされてますね。



きごころし しーあいえるだいひょう なかま
気心知れたC I L代表の仲間とワシントンにて

そして、企業での仕事を辞め、この活動一本にしたときから、もうこれよりほかに道は無し、という思

いもあります。そもそも重度の障害者としてこの後も生きていく限り、介助者からのサポートに支えられ、外に出てもいろんな人から助けてもらえることは多いでしょう。つまり、日常生活を送ることが、介助者というマンパワーを生みだし育成し、外出することは街をバリアフリーに変えていく。もうなけば、日常生活と活動の境界線がないような、活動そのものが生活、ライフワークのようにもなってますよね。続けていくしかないんです。(笑)

もう1つは、やはり活動を続けてきていて、地域の中に知り合いがとても増えました。相談支援をしていることもあり、関係機関の方ももちろんですが、私たちのセンターのある地域の町会関係の方々もそうです。そういう方たちとの日ごろの関わりが、結局自分を元氣させてもらい、活動を続ける原動力になっています。

4. 今携わっている活動(仕事)の難しさと面白さ(醍醐味)

地域の中で、障害や障害者の地域生活を知ってもらって活動を続けてきていますが、私たちの取り組みの例えば1つに「広げよう地域の輪」というのがあります。これは区社協と一緒に地域福祉会館や学校などの場に出かけていき、地域の方たちに向けて、障害特性の理解についての研修会や私たち障害者と出会う場づくりを、もう6年ほど続けてきています。しかし、やはり地域の中で障害についての理解を広げる活動は、一朝一夕には進まず、地域といっても範囲が広く、世代や年齢層も幅広く、なかなか簡単には進みません。何年も続けてもまだまだ行き届いてるとはとても思えません。砂漠に水をまくように気が遠くなるような時間のかかる話とも言えるでしょう。それでもとらえ方によっては、続けていくことにこそ意味がある、という一面もあるでしょう。地道な活動です。

それでも続けることで、少しずつでも地域の中で顔見知りが増えてきたのも事実です。こうした障害者と地域のつながりづくりで、知り合いが増え、活動にさらなる展開がうまれることが、面白さ、醍醐味でしょうか。



ちいきむ しょうがいけいはつ ひろ ちいき わ
地域向け障害啓発「広げよう地域の輪」

5. 活動していく中で大切にしていること

ここまで話してきたなかで、やはりCILは地域の中であって、地域に根差し、障害者の自立生活、障害者と共に暮らす地域、インクルーシブな地域であることの大切さをメッセージとして発信していくのですが、そのためにはCILが地域とどうつながっていくか、地域の側からもわれわれCILの存在を認識してもらえるようにならなければならない、そのためには活動していく、ということ大切にしています。高齢者の福祉が議論される場には、必ず障害者にとっての課題も議論されるようにならなければならない。障害者にとっての課題が取り残されないよう、地域の会議には可能な限り、障害者の

たちば さんかく いしき しょうがいしゃ こうれいしゃ せいかつ
立場で参画していきよう意識しています。それには、障害者のことだけでなく、高齢者やこども、生活
こんきゆう かだい かか ひと しょうがいしゃ たちば ちいき ひと いっしょ かんが
困窮、いろいろな課題を抱える人たちのことも、また障害者の立場で地域の人たちと一緒に考えてい
たいせつ かんが
くことが大切だと考えています。

6. あなたの座右の銘など

わたしじしん ざゆう めい こんかい かつどう かん
とくに私自身にとっての座右の銘があるわけではありませんが、今回の活動に関するいくつかのこ
かんが いちにち な けいぞく ちから
とを考えたとき、やはり「ローマは一日にして成らず」や「継続は力なり」ということがあてはまる
おも しょうがいしゃ し ちいき しょうがいしゃ かか
のではないかと思います。障害者のことをもっと知ってもらったり、地域と障害者の関わりやつなが
けっか いそ もと かつどう と く
りをつくっていくには、結果ばかりを急いで求めてもどうにもならないかもしれません。活動や取り組
つづ ちいき わ ひろ き
みを続けていくなかで、ふと地域の輪が広がっていることに気づくときもあるのではないのでしょうか。

すうねん しゃかいこうけんかつどう ちいき きぎょう きぎょう と く しょく
ここ数年ですが、社会貢献活動をしていきたいという地域の企業とも、その企業が取り組むことも食
どう つづ わたし けいぞくてき おお しゃいん かた
堂を通じてつながることになりました。私たちのセンターにも継続的に多くの社員の方たちがボラン
かか わたし かいしゃ で む しょうがいしゃ ちいきせいかつ し
ティアで関わってくれるようになり、私たちもその会社に出向き、障害者の地域生活を知ってもらう
とうじしゃ こうりゆう ちいき く ひと ちいき はたら
セミナーや当事者との交流などさせていただきました。地域で暮らす人たちだけでなく、地域で働く
ひと ひろ
人たちのつながりにも広がりました。

7. 読者に伝えたいこと

いろいろと書かせていただきましたが、やはり人は人との関わりがとても重要で、関わりを持つこと
か ひと ひと かか じゅうよう かか も
でお互い知らない相手のことを知っていくようになり、相手のことを尊重できるようになると思います。
たが し あいて し あいて さんちよう おも
今回お話した、あるの私たちが私の活動は、障害のことを知ってもらう取り組みですが、そのた
こんかい はな わたし わたし かつどう しょうがい し と く
めには私たち自身が、自分たち以外のこと、他者のことを知り関わりを持つとすること、地域に関わ
わたし じしん じぶん いがい たしや し かか も ちいき かか
りをつくっていきようすることが大切だと思っています。
たいせつ おも

いきつけのお店紹介します！

こんにちは、山下です。いきつけにしている美容室を紹介したいと思います。これまで、4回目ぐらい行きましたが、今までは入口に段差がありましたが、今回（8月）行ってみると入口にスロープが設置されていきました。

調査者：手動車いすユーザー1名

調査場所：holistic hair creation 燕 ~en~

住所：〒546-0043 大阪府大阪市東住吉区南田辺1-9-26

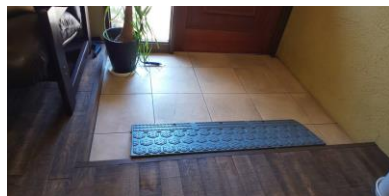
営業時間：火～土曜日10:00～18:00（月曜日はお休みが変わるので問い合わせ必要）

電話番号：06-7713-1597 定休日：不定休（日曜日と祝日は休み）

アクセス：J R 阪和線南田辺駅より徒歩10分 駐車場：なし

私は、最初この店を見つけた時はすごくテンションが上がりました。なぜなら、僕はプロ野球 東京ヤクルトスワローズのファンで、マスコットキャラクターが燕だからです。

店員さんは1人で仕事してます。小学校高学年の2年間は、大阪府岸和田市に住んでいたそうです。僕も岸和田市出身です。「お店の名前が燕だけに、これも、なにかの縁ですね。（笑）」



なぜ、この名前にしたのかというと、自分の名前にならない母音を使おう。短い名前の方が覚えてもらいやすい。漢字は広辞苑を見て決めたとのこと。お店は、完全予約制なので他のお客さんと接触することは、ほぼ、ないです。

入口は手動扉。ドアをノックするかインターホンを押してくれたら玄関を開けてくれます。



店内は、車いすでも移動しやすく、カットしてもらう時は、車いすに乗ったまましてくれてます。洗髪する時は、専用の椅子に移動しないとイケません。

●お店の人の話：段差を上げるのが少ししんどかった。スロープはホームセンターで2～3,000円で買いました。

●自分が利用しているお店で、バリアフルからバリアフリーに変わっていく。なんだか、嬉しくなりました。やっぱり、何回も何回も利用して不便さに気づいてもらう、改善したらお互いラクになることに気づいてもらうことが大切だと思う。そのためには、障害者が街に出ることが大事ですね。バリアに気づく、差別に気づく。そして、バリアや差別を減らしていく活動をこれからもしていきたいと思ひます。

